**「キリストと共に復活させられたのですから**

**上にあるものを求めなさい」**

**年間第18主日・C年（16.7.30）**

**上にあるものを求めなさい**

初めに、今日の第二朗読について簡単に説明させてください。

　まず、この書簡が書かれた年代ですが、おそらくローマ皇帝ネロ（54-68AD）の統治下にあったコロサイの町が地震で破壊してから数年後、すなわちパウロの死後しばらくして、エフェソではパウロの神学がすでに構築されていました。ですから、そこの神学者の中のだれかが、以前コロサイの町があったフリギア地方のキリスト者の間に広まりつつあった誤った教えを論破するために、パウロの名を使って一通の手紙を書いたであろうというのか、今日の定説になっております。

　ですから、一体どんな神学的主張があったのかを確認する必要があります。そこで本書簡では、宇宙全体に及ぶキリストによる購いと、まさに宇宙の主であるキリストに関する教えが明確に打ち出されております。

　したがって、今日の箇所は、いきなり**「あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。」**と切り出します。そして**「そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。」**と主張しています。

　ここで明らかに、**「復活させられた」**と断言できるのは、パウロの次のような洗礼の神学的説明によっても十分納得できます。パウロは、ローマの教会への手紙で、次のように洗礼の恵みについて極めて根本的な説明をしたためております。

　**「わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しいいのちに生きるためなのです。もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。」（ローマ6.4-5）**

確かに、わたしたちは、ほかでもない洗礼の恵みによって何と復活の恵みに与っているのであります。この素晴らしい恵みを常に念頭におくべきではありか。

　ところで、繰り返し強調されている**「上にあるものを求め、・・・上にあるものに心を留め、」**とは、一体何を言いたいのでしょうか。

　すでに復活のいのちに与っているので、この世を超越できる力がそなわっていると言うことではないでしょうか。

　なぜならば、復活のキリストはすでに天において神の右の座におられるのです。したがって、わたしたちは、地上から心を天に高く向けることがでるのはごく当たり前のことと言えましょう。

　**「だから、地上的なもの、すなわち、みだらな行い、不潔な行い、情欲、悪い欲望、および貪欲を捨て去る」**ことが出来るのです。

　ここで、**「貪欲は偶像礼拝にほかならない。」**と断言されていることに注目しましょう。旧約聖書の時代からすでにくりかえさてきた偶像礼拝の正体はなんでしょうか。

　たとえば、モーセの時代には、シナイ山でを授かりましたが、そこでは、はっきりと**「あなたは自分のために像をつくってはならない。」**つまり自分好みに神を造るなというのが、この掟の真意です。ですから、、わたしたちはまさに自分のために貪欲にこの地上の富を蓄えそれを浪費していることこそが、偶像礼拝となるのではないでしょうか。

　特に産業革命の、人間は進歩・発展を大義名分にして、結果的に自然を破壊し、公害をまき散らし、地球温暖化を招いてしまったのであります。

　８月２日に発売になる教皇フランシスコの回勅『ラウダート・シ　ともに暮らす家を大切に』を是非お読みください。天地万物の創造主である神の傑作であるこの掛け替えのない地球こそ、全人類が暮らすみんなの家にほかなりません。それを大切にするのは、わたしたち人類に課せられた当然の務めにほかなりません。ですから、この尊い務めを怠ることこそ、今日の偶像礼拝にほかなりません。

**神のために豊かになる**

　ついで、の福音について簡単な解説をいたします。

　まず、今日の朗読箇所の場面ですが、なんと兄弟同士に遺産相続にまつわる争いの調停を、イエスに願うところであります。

　そこで、イエスは、一同に向かって、次のように宣言なさいました。

　**「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい。あり余るほどの物を持っていても、人の命は財産によってどうすることもできないからである。」**と。

　そして、のたとえを話されました。

　一人の金持ちが主人公です。彼は、自分の置かれている状況に的確に対応できる確かに賢い、まさにこの世の知恵に長けた人物なのであります。ですから、大豊作の時には、作物の保管場所を考え、さらに大きな倉を建てたというのであります。そこで自分に言い聞かせます。**「さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えができだぞ、ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しめ」**と。まさに自分中心の生き方にほかなしません。つまり、自分以外の人のことを全く無視し、自己満足のみを追求する生き方にほかなりません。

　とにかく、イエスのたとえは、次のような結論となります。

　**「しかし神は、『愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、一体だれのものになるのか。』・・・自分のために富を積んでも、神に前に豊かにならない者はこのとおりだ。」**

以前、時あたかもインド・シナ戦争のたけなわの頃、タイとの国境近くに設営された難民キャンプの悲惨な様子が、生々しくテレビの報道番組で放映されていまいた。実は、それをジーと真剣なまなざしで見ていた三歳の幼子が、そのとき自分が食べていたおやつを思わず、**「コレ、食べないよ！」**と言ってテレビに向けて差し出したのであります。ところが、そのお孫さんの様子をそばで見ていた御爺ちゃんが、自分に言い聞かせたそうです。**「おらいの孫は、なんと優しいのだ。おれも何かせねばならねえー」**と。

　そこで、一大決心をし、ご自分の老後のための貯金からなんと一千万という大金を、匿名で、ただ「**おらいの孫の心より」**というメモを添えて国際的な難民救済組織にそっくり寄付したそうであります。

　まさに、このおじいちゃんこそ、神の前で豊かになられたと言えましょう。

　今週もまた、日々愛の実践に励み、天に宝を積むことが出来るよう共に祈りましょう。